

序章 調査の背景及び目的

1. 背景

山梨県では、プライマリ・ケアや二次医療の体制整備を図るとともに、高度・専門的な診断及び治療を行うための三次医療機能の充実が進められており、県立中央病院や山梨大学医学部附属病院をはじめとする病院において、先進的な医療技術や専門性の高い救急医療等が提供されている。

県立中央病院は、がん（都道府県がん診療連携拠点病院）、救急（救命救急センター）、災害（基幹災害拠点病院）、周産期（総合周産期母子医療センター）等の治療等における基幹病院として機能の充実・強化が図られている。

山梨大学医学部附属病院は、県内唯一の特定機能病院として高度で専門性の高い治療を実施するとともに、最先端の放射線治療システムを整備した放射線治療センターの整備や全国の国立大学に先駆けての最新型内視鏡手術支援ロボットの導入など高度医療の提供に積極的に取り組んでいる。

現行の「地域保健医療計画」においても、三次医療について、「主要な疾病ごとの専門治療等の拠点として更なる機能の充実を図るとともに、医療機関それぞれの役割分担を進めながら、病院間の一層の連携を強化していく必要がある」と位置付けられており、さらに、現在、策定作業を進めている「地域医療構想」においても、高度急性期機能の提供体制の構築に関する議論が開始されたところである。

他県の状況をみると、がん医療においては重粒子線や陽子線治療など先進医療の導入が進み、ホウ素中性子捕捉療法など最先端の医療の研究が進められている。また、がん医療以外にも地域の状況に応じた高度医療が各地で展開されている。

2. 目的

本調査は、全国的な高度医療の提供状況及び山梨県の医療環境を踏まえながら、他県の先進的な高度医療のデータを収集し、運営体制や事業スキーム等を分析する中で、山梨県にとってどのような高度医療の導入が適切か、その方向性について明らかにすることを目的とするものである。